

○学習院女短大 内田直子 文化女大家政 盛田真千子
 仙台白百合短大 千葉よう子 共立女大家政 小林茂雄

《目的》前報⁽¹⁾では、現代のフォーマルウェアについての意識と実態調査を、首都圏と地方都市の40～50歳代の女性を対象に検討し、生活実態では両者ともほとんど変わらないが、意識の面ではやや違いがあるという結果を得た。今回は、地域を首都圏のみとし、世代の幅を20～50歳代と広げて、フォーマルウェアに対する利用状況を調査、検討した。

《方法》首都圏に在住する既婚女性(20～30歳代 114人、40～50歳代 115人)を対象に、1992年秋、質問紙票によるアンケート調査を実施した。調査内容は、(1)フォーマルウェアの着用意識、(2)フォーマルウェアのレンタル状況、(3)衣服の収納状況、(4)暮らしや環境問題の意識についてである。分析方法として単純集計、クロス集計及び因子分析を用いた。

《結果》フォーマルウェアのレンタル経験者は、20～30歳代74.6%、40～50歳代56.5%であった。また、フォーマルウェアの着用等の意識調査において、世代別及びレンタル経験別に平均値の差の検定を行ったところ、世代別では「和服の必要性」に関連する6項目、レンタル経験別では「レンタル」等の10項目に有意水準5%で差がみられた。因子分析の結果、20～30歳代では10個、40～50歳代では11個の基本的因子が抽出され(固有値 1.0以上、累積寄与率は20～30歳代64.9%、40～50歳代67.2%)、両者とも「レンタル意識」「収納」等の共通因子が得られた。フォーマルウェアの利用意識、状況は、世代差より各々の生活行動の要因に反映されていることがうかがえた。

(1)内田、盛田、千葉、小林；「資源からみた衣生活」日本家政学会第44回大会発表。